

みんなが気持ちよく生活できるように、昔の人が考えた知恵があります。今の時代にも取り入れたい知恵がたくさんありますね。九小でも九小しぐさを考えて、思いやりをもって生活していきたいですね。

<朝会で話した主な内容> テーマ：「江戸しぐさから学ぶ」

1階の廊下の真ん中に、用務主事さんが白い線を引いてくれてから、右側を歩こうと気を付ける人が増えた気がします。江戸時代、今の東京は江戸と言い、人口100万人を超える大都市でした。この時代に人々がどうしたら争いのない平和な暮らしができるか考え、生み出した心構えを江戸しぐさといいます。

その中に「七三歩き」というのがあります。道の真ん中を歩かず、歩くのは道幅の3割で、残りは急いでいる人など他の人のためにあけておいたそうです。やっていけないのは、相手の行く手をふさぐ通せんぼしぐさやドーンと立ちはだかる仁王立ちしぐさ、人の前を横切る横切りしぐさなどです。

東の間付き合いしぐさというのもあります。道でたまたま出会った人や、偶然隣になった人など、知らない人にも会釈したり挨拶したりして、わずかな時間も気持ちよく、ただ一度の出会いを大切にしていました。

みんなが使わないように心掛けた言葉もありました。一生懸命話しているのに「それがどうしたの?」「そんなこと知ってるよ」と相手を冷めさせる「水かけ言葉」、「でも」「だって」と否定する「戸閉め言葉」、乱暴な言い方の「手斧(ちょうな)言葉」、人をイライラさせたり、嫌味を言って傷つけたりする「刺し言葉」などです。

相手への思いやりを大切にした江戸時代の知恵はほかにもたくさんあります。皆さんが受け継ぎたい江戸しぐさを、見つけてみてください。

- 1 けんかなどをしないために、いろいろいいことと悪いことを決めるのは、いつの時代にも必要だと思いました。学校でも通せんぼや水かけ言葉をやらないようにして、七三歩きや東の間しぐさをやっていきたいです。主事さんが、白いテープをつけてくれたおかげで、右側通行がしやすくなりました。ありがとうございました。
- 2 相手のことを考えて行動する大切さが分かった。主事さんの工夫がすごいなと思いました。マナーがいっぱいあったんだなと思って、興味をもった。江戸の人の思いやりがすごいと思った。
- 3 江戸時代では、江戸しぐさというものをやっていたなんて、知りませんでした。でも、納得しました。なぜなら、狭い場所にたくさんの人がいたら狭いので、譲り合うのが当たり前だと思うからです。僕は、これからもっと注意をして、右側を歩きます。
- 4 心に残ったことは、江戸時代ではみんなが気持ちよく過ごす工夫をしていた、ということです。理由は、自分だけでなくみんなの生活のことを気にすることができるなんて、いいなと思ったからです。私も、みんなの生活のことも考えてみたいです。
- 5 七三歩き、東の間しぐさが良い。そして、良くないのは通せんぼ、仁王立ち、横切り、水かけ言葉、戸閉め言葉、手斧言葉、刺し言葉でした。江戸から今まで、良いことや悪いことの言い方は違うけれど、そのしぐさは同じだ、と分かった。
- 6 昔は、人口が100万人を超える人数がいると知った。七三歩きは、道の3割を歩いて残りの7割は急いでいる人のための道なので、登校時、下校時にしたいと思います。仁王立ちは、前に立ちはだかること。僕は絶対にしません。東の間しぐさは、小さく会釈すること。これからは、東の間しぐさを目指していきたいと思います。
- 7 江戸しぐさってすごい、と思いました。理由は、もしも江戸しぐさがなかったら、普通に歩いてちょっとぶつかっただけで、けんかになってたと思うからです。これから少しは、江戸しぐさをやろうと思います。
- 8 生活をよりよくするためには、江戸時代にやっていた「江戸しぐさ」をやるとよりよくなると思いました。初めに自分が「江戸しぐさ」をやって、1年生から6年生までに知ってもらって、体でやってもらいたいと思います。
- 9 心に残った言葉は、人を傷つける「刺し言葉」です。私は、たまに刺し言葉を人に言ってしまふことがあります。だからこれからは、東の間しぐさなどを人にたくさんできるようになりたいです。
- 10 真ん中を歩くと邪魔になるから、端っこを通ることを心がけようと思います。お互いが気持ちよく生活するために。
- 11 やってはいけないのは、相手を通さない通せんぼや仁王立ちだと分かった。主事さんが、廊下に線を引いてよかったと思います。僕も右側を歩いています。